

汐見小学校 令和7年度 英語コミュニケーション

英語コミュニケーション科の特徴

「明るく・楽しく・面白く」「英語嫌いを出不さない」授業を目指し、担任とALTが協働して授業づくりを行っている。特徴として以下の点が挙げられる。

- 1 ALTがT1、担任がT2の役割を果たす授業を基本としている。授業では担任はT2であるが、授業のマネジメントを行う。また、担任がALTと積極的にコミュニケーションをとり、「よい学び手」としての手本を児童に示す。
- 2 アクティビティを中心に、1時間たっぷり英語を使う活動を取り入れる。その授業で「身に付けさせたい英語の力」は何か、「どのようにステップアップしていくのか」、「コミュニケーション能力の中のどんな力を身に付けさせたいのか」を明確にしたアクティビティを考えていくことを大切にする。
- 3 ALT（ネイティブ）が話す英語を1年生から6年間、シャワーのようにたっぷり聞かせることをベースとした言語活動に取り組ませる。
- 4 児童同士、児童とALT、児童と担任によるコミュニケーション活動を、発達段階に応じた題材を介して、繰り返し指導していく。そのために、目の前の学級の子供たちの実態から授業を考えることを大切にしている。

★汐見小児童へのアンケート（R7の結果より）

【Q.英語コミュニケーションの授業は楽しいですか？】

汐見小	とても楽しい	楽しい	少しだけ楽しい	楽しくない
	53%	36%	7%	4%
	89%		11%	

【Q.英語を使ってもっとできるようになりたいことは何ですか？ *複数回答】

汐見小	英語で話せるようになりたい	英語で簡単な意見発表ができるようになりたい	英語を聞き取れるようになりたい	英語の文を書くことができるようになりたい
	81%	41%	61%	61%



・「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童は89%と高い結果である。しかし、11%の児童はあまり楽しさを感じていないという状況である。
 ・英語で「話したい」と回答した児童は81%と高い結果である。また、「書きたい」と回答した児童は61%で、昨年度よりも7%増加となった。

【成果と課題】

○単元の流れの中で、「書く活動」を設定することで、児童の「書きたい」という興味関心が高まった。

○ALT（ネイティブ）が話す英語を常に聞くことで、聞き取れるようになったと感じている児童が増えた。

▲新しく学習する表現を使えるようにすることで精一杯であった。今後、場面状況に応じて思考力を働かせ、「生きた英語」を使えるようにする授業展開・単元構成を考え、日常的に英語を使おうとする児童の育成を目指したい。

